「減圧室の事故」について」

29 社会S 13版 2014年(平成26年)10月22日 水曜日 朝日新聞

健康効果うたう「減圧室」記者が入ってみた

NEWS ニュースQ3

富士山9合目と同じ低気圧にして新陳代謝を促すという「減圧室」で男女2人が死亡する事故が起き、警察が捜査している。健康効果をうたって気圧を調整する施設はここ数年、全国に増えているという。

2人死亡事故 原因は捜査中

埼玉県ふじみ野市のスーパー銭湯「真名井の湯大井店」の減圧室で先月、事故は起きた。同県富士見市の男性会社員(65)と女性介護士(58)の2人が、利用時間の45分を過ぎても出てこないため従業員が確認すると、減圧状態の室内で2人が倒れていたという。

施設運営会社によると、減圧室は約7年前に福島県の製造元から購入。15分かけて高度約3500㍍の低気圧にし、15分維持したあと通常の気圧に戻す。圧力が戻るまで扉は開かない。

「効果」について、銭湯のホームページでは「身体の中から改善し成人病や数々の病から身体を守る」とうたっていた。利用は1回約45分で300円。事前に体調チェック表を記入してもらっており、2人とも問題ないとしていた。

遺体を解剖した県警によると、2人には急死につながるような病気はなく、死因は現時点ではっきりしない。室内には気圧を戻すボタンや緊急用のインターホンもあったが、2人がインターホンや減圧解除のボタンを押したかどうかは不明という。県警は機械の誤作動や操作ミスが死亡事故につながった可能性もあるとみて、業務上過失致死容疑も視野に捜査している。

密閉され動揺 眠くてだるい

今回の事故とは違う製造元の減圧室を記者も体験してみた。東京都新宿区の「調圧室」と呼ばれる施設。「全身の血液の流れがよくなる」とホームページで紹介されていた。

5分で高度1500㍍の低気圧にした後、5分かけて平地の気圧に戻すのを計5回繰り返す。「気圧が下がっているときは密閉されているので、ドアは開けられない」と説明を聞いたときは、内心動揺した。

気圧が戻り始めると、蒸し暑くなり汗ばんできた。耳が聞こえづらく、あくびが出てきた。50分経ち、外に出る。肩を回しやすくなった気もするが、眠くて体がだるい。

一緒に室内に入った千葉県の無職男性(89)は「いい気分になる。健康法のひとつ」と話した。

行政監督なし 専門家は警鐘

こうした施設は、国の許可が必要な医療機器ではなく、効果は証明されていない。だがここ数年、同種施設を開く店が増えているといい、事故があった施設と同じ製造元だけでも、8年前からこれまでに約50台を出荷したという。

専門家はどう見るか。麗屋体育大学の山本正嘉教授は「健康な人なら、高度3500㍍の気圧で亡くなるとは考えにくい」と話す。

高地トレーニングに詳しいびわこ成蹊スポーツ大の若吉浩二教授は「実際の高地トレーニングは標高約2千㍍で1週間ほどかけて体を慣らす。一般の人がいきなり3500㍍の気圧にさらされると、全ての臓器に負担がかかり危険だ」。

高山病に詳しい日本旅行医学会の篠塚規専務理事は「高齢者や持病のある人は、脳卒中や心臓病を発症する可能性がある。リスクのある機械が行政の監督下におかれていないのは問題だ」と警鐘を鳴らす。

(富岡万葉、清宮涼)

記者が体験した「調圧室」の内部。定員は18人。エアコンが設置された室内には音楽が流れ、クッションや足置きなどもある＝東京都新宿区
（この設備と事故は関係ありません）

Q.減圧室に健康効果はあるのか？

私たちの体は、標高が高く、圧力が低い所では、以下のような変化を通して環境に順応していきます。

●呼吸数の増加　●赤血球数の増加　●毛細血管の拡張　●ミトコンドリアの増加

このような変化を通して、体は、高地でもたくさんの酸素を体に取り込めるように適応するのです。
しかし、このような適応反応が完成するには、数週間から数十日もの長い期間、高山の環境に居続ける必要があります。
※アスリートが、心肺機能を高めるために何週間も高山トレーニングを行うのはこのためです。

減圧室内で、もっとも低い気圧にさらされる時間は、わずか 15～20 分程度です。
その時間が終わると、再び通常の気圧に戻ります。
したがって、心肺機能を高め血行を促進する効果がある可能性は否定できませんが、その効果は
極めて限定的であると思わざるをえず、一般の方には非常にリスクの高い低圧の環境と考えられます。